

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	若葉インターナショナル幼保園 瑞江園
施設所在地	東京都江戸川区東瑞江3-55-21 エムプラス1F

1. 活動のテーマ

<テーマ>

世界を知ろう 1 せかいタッチ

電子黒板を用いて、ZOOMでリアルタイムで世界の子ども達との文化交流をする

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

外国人の職員が常駐する園であり、もともと外国の文化に関心を持つ機会は多かった。子ども達に世界をどうとらえているか質問をしたところ、『世界の子もってどんな見た目?』『世界のあいさつってどういうの?』『日本にない食べ物って何?』など、知りたいことがたくさんあることが分かった。そこで、世界の子どもとの文化交流ができる『せかいタッチ』を導入することが決まった。

ニュージーランドやケニア、シンガポールなど様々な国のパーティの参加に向けて、事前にその国の文化を知る時間を作り理解を深めて、パーティ当日はZOOMを利用して外国のお友達と一緒に空間でゲームをしたり文化交流をした。

2. 活動スケジュール

8/26 せかいタッチ導入 『せかいてってどんなところ?』

9/12 ニュージーランド

10/23 ケニア

11/14 シンガポール

2/19 インド

3/6 せかいタッチ まとめ

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

準備した素材 : せかいタッチ 電子黒板 世界地図パズル 日本地図パズル
英語絵本セット 世界の図鑑

せかいタッチパーティの導入として、その国の文化を知るために電子黒板を使ってわかりやすく解説をしたり、絵本や図鑑を使って子ども達に知らせていった。そこで生まれた疑問などは、図鑑やインターネットを使って調べた。パーティ当日は子ども達が大きな画面を通して声を掛け合ったり、目で見える文化の違いを感じることができた。

パーティの参加の際の用意として、大きな国旗を画用紙に絵の具で描いたり、日本の文化を伝えるためのプリントなどを子ども達と話し合っって用意した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

せかいタッチパーティの前に、電子黒板を使ってその国の文化の導入をしておき、その国の有名な食べ物やスポーツなど、予想したりインターネットや絵本、図鑑などを使って調べた。せかいタッチパーティでは、電子黒板を使って大きな画面で子ども達が見やすい環境を用意し、ナレーションの進行にしたがって歌やダンスと一緒に披露したり、お互いの国で有名なスポーツや食べ物などを教えあったりして文化交流をした。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

海外の子ども達の反応に驚いたり、ナレーションに元気よく反応する姿が良く見られた。外国のお友達と一緒にゲームをしても盛り上がった。ケニアの時は、「ジャンボー」とあいさつするのが面白かったり、「肌の色が違ったね」と気づく子どももいた。

パーティをした後に感想や気づいたこと、次のパーティではどんなことをしてみたいかなど子ども達と一緒に振り返りをして発言を記録した。パーティを実施した様子は園内に掲示したりメール配信で伝えて保護者に共有した。子ども達からはその日のパーティの話を「お家に帰って早くママに話したいな」という声が出るが多かった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子ども達が世界の子供と交流をすることで、肌や目の色、食べ物や周りの環境の違いはあっても、子ども自体の好きな遊びや食べ物・流行っているスポーツなど大きな違いがなかったことに驚いていた。周りの先生たちも同時に驚きを感じた。『同じ』という感覚を子ども達が持つ事に大きな発見があった。「外国の子も同じスポーツが好きでびっくりしたし、なんかうれしかった」と言っていた子どもが印象的だった。

パーティの後の振り返りで、もっと世界のこと知りたいという声があがり、図鑑を使って探究を進める流れが生まれた。また、おもちゃ（ラキュー・レゴ・カプラ・お人形・おままごと）を使って世界を表現したいという言葉が発せられたり、もっと日本のことを知りたいという声が出たので、子ども達の主体的な探求心を深めるサポートを行った。

子どものちょっとした一言をつかむためには、見守る時間をの重要性を感じた。今後もせかいとのつながりを感じながら、子どもの知りたい・やってみたい気持ちを大切にしていきたい。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	若葉インターナショナル幼保園 瑞江園
施設所在地	東京都江戸川区東瑞江3-55-21 エムプラス1F

1. 活動のテーマ

<テーマ>

世界を知ろう 2 図鑑

図鑑を用いて、子ども達の興味を持ったものを調べたり、色々な疑問を解決する。また、新たな発見を自分から見つけれられるようにしていく。

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
せかいタッチを通じて、世界の食べ物 乗り物 着るもの 楽器 生き物など 様々な文化に興味を持った子どもたちが 『もっと詳しく調べてみたい』という声が発せられたことで、関連する図鑑を用意した。

2. 活動スケジュール

2/2 グループ分け

2/5 話し合い

2/6 グループごとに図鑑を使って調べ物をする

2/13 グループごとに発表

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
準備した素材 : 様々な種類の図鑑 (地球 深海生物 昆虫 動物) 子ども達が疑問に持ったメモをまとめた紙

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

子ども達が興味のあるものについて図鑑グループを作り、どんなことを調べてみたいか話し合った。「一番長い名前の虫は?」「ケニアにいる動物って何?」「一番おいしいフルーツって何だろう」「オーロラってどこで、どうやったら見れるの?」など、思いつくいろいろな疑問をあげていき、実際に図鑑を使って調べたものをそれぞれ発表した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

自分たちの興味のあるものから選んだ図鑑であったため、集中して見ていたり、探し物が見つかると「これ、一番長い名前じゃない?」「初めて見た形の乗り物なんだけど、なんて読むの?」「宇宙ってきれいなものがいっぱいあるね」など、色々な発見をする子どもの姿が見られた。なかなか見つからないものに関しては、保育者が一緒に探していた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

あらかじめ疑問を集めてから図鑑を見ることで、子どもたちも目的意識が生まれて答えを見つける面白さも感じられていたと思う。4・5歳のペアを作ったことで異年齢での協力する姿が見られたり、最後に発表があることを知って「どうしてもこの答えを見つけたいんだ」と一生懸命になる子どもの姿が見られた。最後の発表は子ども達がみんなの前で行うことで、自信がついたと思う。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	若葉インターナショナル幼保園 瑞江園
施設所在地	東京都江戸川区東瑞江3-55-21 エムプラス1F

1. 活動のテーマ

<テーマ>

世界を知ろう 3 世界を表現しよう (レゴ・ラキュー・カプラ・お人形・おままごと)

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

今年度の発表会の手話ソングが『it's a small world』に決まり、歌の意味などを考えながら世界を意識する機会が生まれた。そこで『歌以外でも世界を作ってみたい』という意見が生まれたので、世界を表現をする・形にすることについて子ども達と話し合った。「世界を作ってみたい」「世界のお人形であそんでみたい」「日本じゃないご飯を作りたい」という声が発せられたため、それぞれを表現する機会を設けた。

2. 活動スケジュール

2/6 グループ分け

2/17 世界を表現

2/24 世界を表現

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

世界を表現 : ラキュー レゴ カプラ

作りたいもののイメージを膨らませられるように、色々な国の有名な建物や乗り物、食べ物や国旗などの写真やイラストをテーブルに配置

世界で遊ぶ、表現する : 着せ替え抱っこ人形 本物みたいな野菜・果物
お人形のそれぞれの違いを導入で伝えていく 外国のご飯の写真を用意

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

「世界のいろいろなものを作りたい」という声を形にした。子ども達はそれぞれ表現したいものを自分で選んで自由な創造をしていった。レゴやラキュー、カプラなど様々な材料と、一度に作れる量を用意したので、子ども達は大きさも色も自由に表現ができた。お人形は導入で髪の色や肌の違いを子ども達に説明をしてから子ども達に選んでもらった。おままごとは、外国のご飯のを見ながら作ることで、いつものおままごと遊びとは違った色合いや並べ方になった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

始まる前からワクワクする子ども達がいる、「今日は飛行機作るんだ」「スカイツリーを作りたい」など話していた。活動中はお互いにお友だちの作っているものを見ながら真似をしたり、別の物を作って並べたりと刺激を受けている様子だった。国旗や乗り物、食べ物まで色々なものを作ることで、「こんなにたくさんの世界を作れたね」「今度はアメリカのやつも作ってみたいな」「今度は宇宙を作ってみたいな」など、想像力も広がっている様子だった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

世界を表現するにあたり、参考にできる写真やイラストを大陸や国ごとに用意したので、子どもの発想が大きく膨らんだ。レゴやラキューは以前よりも素材の量を増やしたので、子どもの作りたい思いを制限しないでどこまでも大きなものや好きな色を使うことができる環境がとても楽しかったようだった。最後に出来上がった作品を並べて発表会の手話ソングの『it's a small world』を歌いながら完成をみんなで祝うことができてよかった。

「今度はアメリカの車を作りたいな」「次はもっと大きいタワーを作るんだ」と、子ども達のもっとやりたい気持ちが高まっている姿が見られた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	若葉インターナショナル幼保園 瑞江園
施設所在地	東京都江戸川区東瑞江3-55-21 エムプラス1F

1. 活動のテーマ

<テーマ>

世界を知ろう 4 日本（茶道・書道・凧）

世界を知ったことで子ども達は日本に興味を持ち、実際に日本の文化を体験した。

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

せかいタッチを進めている間に、子ども達から「日本の事、もっと知りたいな」「日本にしかないことって何があるの?」という疑問から、子ども達が参加してみたい活動について話し合いをして、そこから『茶道・書道・凧』を選んだ。年間を通しての浴衣DAYで指導をしてくれる職員と一緒に、環境を準備したうえで体験をすることができた。

2. 活動スケジュール

9/26 1/6 書道
10/31 11/12 茶道
1/13・16 凧揚げ

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

書道 : 硯 筆 (細筆・太筆) 文鎮 下敷き

浴衣を着て、テーブルの上に書道セットを用意

茶道 : 色紙 湯呑 急須 お盆 毛氈

浴衣を着て、毛氈を子ども達の前にひいて、正座で座る。職員が入れたお茶と自分で作ったねりきりが配られ、それをいただく。

凧 : 新角だこ

凧に各デザインは、たくさんの色のペンを用意して好きなデザインで描けるようにした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

茶道: 本物の道具に触れながら、日本の文化『茶道』についてを指導する職員と一緒に体験をする。調理の職員と練り切りづくりをしたり、お茶の入れ方や飲み方を学んだ。

書道: 筆や硯を使い、お手本を見ながらクラスで決めた感じ一文字を心を込めて書いた。

凧: 購入した凧にマジック等でお絵描きをし、風の強い日を選んで高く飛ばして遊んだ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

茶道: 指導してくれる職員から『作法』を学び、緑茶の味を堪能した。「思ったよりも苦くない」「練りきりと一緒に食べるとおいしい」など、お茶のおいしさ、飲み方も知ることができて楽しんでいる様子が見られた。

書道: 「緊張する」「うまく書けるかな」と、始める前はそわそわする様子が見られた。普段見ない硯や文鎮にも興味をもって、一文字を書き上げると「これは私が書いた友っていう字なんだよ」と誇らしげな様子だった。

凧: マジックでいろいろな絵や文字を書き入れ、「早く飛ばしたいなあ」「本当に高く飛ぶのかな?」など、期待が高まっていた。凧揚げ当日では、風を受けてよく飛んでいる様子で子ども達は嬉しそうに走り回っていた。帰り道で、「どうやったらもっと高く飛ぶのかな」と考えている子どももいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

日本の文化として、茶道・書道・凧揚げに参加した。見たことはあっても初めての経験だったり、本物を使うことで得ることのできる体験が子ども達にとって良い時間になったと思う。日本の文化は他にもたくさんあるので、今後はもっと色々な文化を知ったり体験ができる環境を作っていきたいと思う。